

西成郡下福島村江川家文書概要

1:文書群番号	116048
2:文書群名	西成郡下福島村江川家文書
3:出所	江川家
4:家業・役職等	近世：下福島村庄屋/下野国壬生藩蔵屋敷名代（多田屋） 近代：下福島村戸長
5:地名	摂津国西成郡下福島村/大阪府西成郡下福島村/大阪市北区下福島/ 大阪市此花区下福島/大阪市福島区下福島
6:行政区分	幕府領/大阪府/西成郡下福島村/大阪市
7:歴史	下福島村は摂津国西成郡、堂島川右岸に位置した。延宝5年（1677）に福島村が上福島村・下福島村に分村して成立した。「旧高旧領取調帳」によると村高は241石余。下福島村は大坂三郷に近接し、その拡大に伴って町場化していった。 宝暦10年（1760）には、大坂町奉行により「町続在方」に指定された。このことによって代官と町奉行双方から支配・統括を受け、年貢・町役両方を賦課された。 江川家は、近世初期以来明治期まで代々下福島村に居住し、近世には庄屋を務める家柄だった。近世中期以降、下福島村が町場化していくのに伴い、借家経営や金融、米商いにもかかわるようになっていく。特に寛保期（1741～44）ごろからは商人として下野壬生藩島居氏の蔵屋敷に出入りし、蔵物の販売や金銀の用立てなど商人蔵元的な活動をしていた。結果、文化7年（1810）には壬生藩の蔵屋敷が下福島村に移転し、江川氏は名代を務めることになった。 明治期には戸長を務め、西成鉄道の会社設立にも深く関与し、農業・借地・借家経営だけでなく、地域の政治家・株主・企業経営者として活躍した。大正期には大阪市域外にも居宅を持ち、西宮市の別宅に移り住んだようである（『角川日本地名大辞典』、大阪市史編纂所・大阪市史料調査会編『大阪市史編集の100年』2002年）
8:伝来	出所は西成郡下福島村江川家で、大阪市史編纂所寄託江川家文書と本来一体のものと推測される。 平成28年11月、源健男氏より借用した。
9:史料入手先	源健男氏
10:点数	500点（目録件数322点）
11:年代	元禄14年（1701）～昭和2（1927）
12:構造と内容	本文書群は主に、①近世の下福島村関係文書、②江川家による土地売買・借家経営に関する文書、③江川家の私的文書からなる。 ①は年貢銀や二條蔵・難波蔵・浅草蔵上納米の請取通、庄屋役交代や淀川国役普請に関する文書などがある。 ②の土地売買については、明治20年代から大正10年代の土地合併あるいは分割届や地目変換届、大阪市電車道路・下福島小学校等の用地売却、陸軍軍馬補充部大山支部旭川出張所払い下げ等に関する書類がある。 借家経営については、明治8年から23年までの借家請負券がある。近代の江川家において経営の中心を担ったのが江川つやである。借家請負券には「中島津弥」「中島九右衛門」などの名前が見られる。つやが嫁入りしたときに持参したものと推測できる。 ③は江川つやの養女八重子に対する尋常小学校の修業証書・卒業証書や、江川つやによる寄付金に対する感謝状や領収証等である。

13: 関連史料	大阪市史編纂所寄託江川家文書
14: 閲覧条件	原本
15: 検索手段	
16: 作成者	松本望